

令和7年度

看護学研究科（博士前期課程）

問題・出題の意図・解答のポイント

令和7年1月11日

高知県立大学大学院

小論文

問 看護実践において対象の語りを活用することの有用性と限界について、あなたの考えを述べてください。

(100点)

<出題の意図>

看護実践において対象の語りを活用することは重要である。この設問により、対象の語りを活用することに関する専門的知識、看護実践に対する洞察力、論理性と抽象的思考力をみる。

<解答のポイント>

看護実践において対象の語りを活用することの有用性として、対象理解の深まり、信頼関係の構築、看護者の自己理解の促進などについて述べていること。限界として、解釈の違いが生じること、時間的制約、聴き手語り手の能力に依存することなどについて述べていること。

英語 高度実践看護師コース・研究コース

次の英文を読み、下記の質問に日本語で答えてください。

(100 点)

出典: Resnick, Barbara: 10. Theory of Self-Efficacy: Smith, Mary Jane and Liehr, Patricia R.:
Middle Range Theory for Nursing, Springer Publishing Company, 2018, p.215 より抜粋

<出題の意図>

大学院博士前期課程において必要となる基礎的な英文読解力と、設問の内容を的確に把握し、解答する力をみる。

問1 筆者は、Self-efficacy についてどのように述べていますか。要約してください。

(50 点)

<解答のポイント>

以下の内容を含んでいること。

- ・ 行動指針を組み立て実行する能力に関する個人の判断である
- ・ 反省的思考、特定の行動を実行するための知識やスキルの活用、その他の自己影響力などを使って人はどのように行動するかを決定する
- ・ 個人が自己評価する機会、あるいは個人のアウトプットを何らかの評価基準と比較する能力が必要である

など

問2 患者の Self-efficacy を高めるために、どのような働きかけを行いますか。英文の内容も参考にして、あなたの考えを述べてください。

(50 点)

<解答のポイント>

提示された英文も参考にして、自らの考えを述べていること。

英語 実践リーダーコース

次の英文を読み、下記の質問に日本語で答えてください。

(50 点)

出典: Donnelly, Gloria F.: Secondary Stress and the COVID-19 Pandemic, *Holistic Nursing Practice*, 35(2), 2021, p.55 より抜粋

<出題の意図>

大学院博士前期課程において必要となる基礎的な英文読解力と、設問の内容を的確に把握し解答する力をみる。

問1 下線部を日本語に訳してください。

(20 点)

<解答のポイント>

文章を正しく捉えて、日本語に訳していること。

問2 コロナ禍のような状況において看護師が経験するストレスを1つとりあげ、それを乗り越えるために必要な方略について、あなたの考えを述べてください。

(30 点)

<解答のポイント>

設問に対して、自らの考えを述べていること。

専門科目 慢性看護学

問1 慢性疾患をもつ成人のセルフマネジメントへの学習支援について、以下の1)、2)に答えてください。

(100点)

- 1) 慢性疾患をもつ成人がセルフマネジメントを主体的に学習するプロセスについて、有用な概念や理論を1つとりあげて説明してください。
- 2) 上記1)をふまえて、慢性疾患をもつ成人のセルフマネジメントへの学習支援方法について、その根拠とともに述べてください。

<出題の意図>

慢性疾患をもつ成人のセルフマネジメントへの学習支援は、慢性看護の重要な役割である。この設問により、慢性疾患をもつ成人のセルフマネジメントへの学習支援に関する専門的知識、分析力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

- 問1-1) 慢性疾患をもつ成人がセルフマネジメントを主体的に学習するプロセスについて、アンドラゴジー（成人教育論）、自己効力理論、経験学習サイクルなどをとりあげて説明していること。
- 問1-2) 上記1)をふまえて、慢性疾患をもつ成人のセルフマネジメントへの学習支援方法について、根拠とともに述べていること。

問2 次の事例を読んで、以下の1)、2)に答えてください。

(100点)

Aさん（56歳、男性、独居）は、中山間地域で40歳代後半から家業の林業を父から承継し、小規模農家を営みながら自給自足に近い生活をしている。居住地域は高齢化と過疎化が進んでおり、診療所や薬局、食料品店もない。父親は約10年前に、母親も2年前に、いずれも脳卒中のため遠方のB病院に長期入院し亡くなった。姉と妹は県外に嫁いでいる。先日、保健師の勧めで約5-6年ぶりに地域の特定健康診断を受診したところ、精査を勧められた。片道1時間以上かかるC病院で精査した結果、医師より慢性腎臓病のステージG3bであり、進行すると将来は腎代替療法が必要になることが説明された。居住地域には透析病院がないため、血液透析を選択すると、C病院へ通院する必要があることも説明された。その後、看護師が待合室にいるAさんへ慢性腎臓病のセルフマネジメントについて話し合おうと声をかけたところ、「先祖からずっと引き継いできた山を放棄することだけは避け

たい。自分ができなくても何か違う形で山を管理していかないといけないとはずっと思っていたんだが……。透析始めたら俺の人生終わりか……。いや、それまでに何か手を打たないと……。」と将来のことを考え込んでいる様子である。

- 1) Aさんについて、アセスメントしてください。
- 2) 上記1)をふまえて、Aさんへの治療についての意思決定支援について、根拠とともに具体的方法を述べてください。

<出題の意図>

慢性疾患をもつ壮年期成人における治療についての意思決定支援は慢性看護の重要な役割である。この設問を通して、治療についての意思決定支援に関する専門的知識、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

- 問2-1) Aさんについて、慢性腎臓病や腎代替療法が仕事の継続に及ぼす影響を見通せない不確かな状況にある、慢性腎臓病の進行を阻止するためのセルフマネジメントに必要なサポート資源が不足している、などをアセスメントしていること。
- 問2-2) Aさんの治療についての意思決定支援として、自己の気持ちを整理し課題を明確化するための積極的傾聴と共感、不確かさを招いている不足情報の明確化と情報提供、その人にとって大切な人生の目標や社会活動をふまえたセルフマネジメント方法への支援、などを根拠とともに具体的に述べていること。

専門科目 在宅看護学

問1 中山間地域における在宅での看取りについて、以下の1)、2)に答えてください。

(100点)

- 1) 中山間地域における在宅での看取りに関する課題を1つとりあげて、説明してください。
- 2) 1)でとりあげた課題の解決に向けた看護職としての取り組みを根拠とともに述べてください。

<出題の意図>

多死社会を迎えて、看護職は住民が住み慣れた地域で最期まで望む生活を実現できるよう支援することが求められている。この設問により、中山間地域における在宅での看取りに関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

問1-1) 中山間地域における在宅での看取りに関する課題として、保健医療福祉の資源不足、介護力の不足などについてとりあげ、説明していること。

問1-2) 1)でとりあげた課題の解決に向けて、療養者を支える専門職・非専門職による支援体制づくり、住民や療養者・療養者家族の在宅での看取りについての意識啓発や知識獲得への支援など、看護職としての取り組みについて根拠とともに述べていること。

問2 次の事例を読んで、Aさんと家族の直面している課題に対する具体的な看護援助を2つとりあげ、アセスメントとともに説明してください。

(100点)

Aさん(87歳、女性)は、夫(88歳)と長女(56歳、会社員)の3人暮らしである。Aさんは5年前から軽度の脳梗塞を繰り返し、歩行や排泄に見守り介助が必要となっている。日中は夫が、夜間は長女が見守り等の介護を担い、自宅療養を続けていた。しかし、この1ヶ月間でADLが低下し、1週間前からは歩行困難となり、臥床する時間が長くなった。Aさんはオムツを使用するようになったが、夫は長女が帰宅するまでオムツを替えることができず、オムツかぶれとともに仙骨部に5cm大の発赤が出現している。

2 日前の血液生化学検査結果は、総タンパク 5.7 g/dl、アルブミン 2.8 g/dl であった。本人は入院を拒否し、自宅での療養生活を希望している。今回、往診を開始した在宅療養支援診療所の医師と担当ケアマネジャーからの紹介で、訪問看護が開始となった。

<出題の意図>

脳梗塞を繰り返す高齢者の病態や症状等の変化に早期に対応し、在宅療養生活が継続できるよう援助することは看護職の重要な役割である。この設問により、在宅療養の継続を希望する高齢者への看護援助に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

A さんへの看護援助として、本人と家族の意向確認、状態把握と再評価、廃用症候群の予防などから 2 つとりあげ、アセスメントとともに具体的に述べていること。

専門科目 母性看護学

問1 母乳不足感を訴える母親への支援について、以下の1)、2)に答えてください。

(100点)

- 1) 母乳不足感を訴える母親の状況についてどのようなことをアセスメントするか、活用する情報も含めて説明してください。
- 2) 母乳不足感を訴える母親への支援を具体的に説明してください。

<出題の意図>

母乳育児における支援は母性看護の重要な課題である。この設問により、母乳育児に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

問1-1) 母乳不足感を訴える母親の状況について、児が母乳を十分に摂取できているか、母乳分泌不全が起きていないか、母親が母乳不足と感じている要因は何かなど、以下の情報を活用して説明していること。

- ・授乳状況
- ・児の体重増加量や排泄状況
- ・乳房の状態・乳汁分泌状況
- ・母親の母乳育児にかかわる言動 など

問1-2) 母乳不足感を訴える母親への支援について、母親が安心して話ができる環境をつくる、母親がこれまで取り組んできたことを尊重する、客観的な情報をもとに母親に分かりやすく現状を伝え対応を一緒に考える、などを具体的に説明していること。

問2 高年初産婦への支援について、以下の1)、2)に答えてください。

(100点)

- 1) 高年初産婦の身体的特徴や心理・社会的特徴から、健康課題を1つあげて説明してください。
- 2) 1)であげた健康課題についてどのような支援を行うか、根拠とともに具体的に説明してください。

＜出題の意図＞

我が国では初婚年齢、第1子出産年齢の上昇にともない高年妊婦が増加しており、その特徴をふまえた看護は重要である。この設問により、高年初産婦に関する専門的知識、看護実践能力、論理的思考力をみる。

＜解答のポイント＞

問2-1) 高年初産婦の健康課題として母体では合併症妊娠や流早産などのリスクが高いこと、親からのサポートが得られにくいこと、などから1つあげて説明していること。

問2-2) 高年初産婦への支援として1) をふまえ、異常徴候に気づけるよう教育的にかかわる、妊娠期から育児期をみすえてソーシャルサポートの確保や役割調整を促す、などについて根拠とともに具体的に説明していること。

専門科目 看護管理学

問1 災害発生時における看護管理者の役割として、どのようなことが重要であるか、あなたの考えを述べてください。

(100点)

<出題の意図>

災害発生時における看護管理者の役割について理解していることは、重要である。この設問により、災害発生時における看護管理者の役割に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

災害発生時における看護管理者の役割として、発生している現象を俯瞰し、様々な資源を活用しながら目標達成へと導くこと、限られた資源を活かすために組織外との連携・調整を行うこと、適切な情報管理を行うことなどについて、自らの考えを述べていること。

問2 働き方改革の推進が看護職の所属する組織と個人に及ぼす効果について、あなたの考えを述べてください。

(100点)

<出題の意図>

働き方改革の推進は、看護管理実践において重要である。この設問により、働き方改革に関する専門的知識、分析力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

働き方改革の推進が看護職の所属する組織と個人に及ぼす効果として、労働生産性の向上、多様な人材を活用する雇用管理の実現、仕事と家庭との両立、心身の健康の維持などをとりあげ、自らの考えを述べていること。

専門科目 看護教育学

問1 教育評価について、以下の1)、2)に答えてください。

(100点)

- 1) 学習目標を基準として行われる教育評価の目的を説明してください。
- 2) 臨地実習における教育評価の課題について、あなたの考えを述べてください。

<出題の意図>

学習目標を基準として行われる教育評価の目的を理解した上で、臨地実習における教育評価の課題を批判的に検討することが重要である。この設問により教育評価に関する専門的知識、分析力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

- 問1-1) 教育評価の目的として、学習目標の達成状況について情報収集し適切に把握すること、情報の解釈と価値判断により教育のあり方を点検すること、具体的な教育改善の意思決定に役立てることなど、説明していること。
- 問1-2) 臨地実習における教育評価の課題として、認知的側面だけでなく技術的側面や情意的側面を総合的に評価しなければならない難しさがあること、様々な評価ツールの開発と活用が必要であることなど、自分の考えを述べていること。

問2 看護実践能力を向上させるための看護職への学習支援について、以下の1)、2)に答えてください。

(100点)

- 1) 看護実践能力の発達について、有用な概念や理論を1つとりあげて説明してください。
- 2) 上記1)をふまえて、看護実践能力の発達に応じた学習支援の方法について、あなたの考えを述べてください。

＜出題の意図＞

看護職の看護実践能力を向上させるためには、看護実践能力の発達に応じた学習支援が重要である。この設問により看護実践能力の発達に応じた学習支援に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

＜解答のポイント＞

問２－１） 「実践知（暗黙知）」「ベナー看護論—初心者から達人へ」などの概念や理論をあげて、看護実践能力の発達について説明していること。

問２－２） 上記１）をふまえて、看護実践能力の発達に応じた学習支援の方法として、領域固有の具体的方法の知識・スキル習得の支援や実践前後の省察支援、他領域や多様な状況への知識・スキルの応用・判断力習得の支援や実践中の省察支援など、自分の考えを述べていること。

専門科目・地域保健学

【問1は必答問題です。問2、問3は選択問題です。1つを選択して答えてください。】

問1 セルフマネジメントについて、以下の1)、2)に答えてください。

(120点)

- 1) セルフマネジメントについて説明し、あなたの実践領域においてこの概念を活用することの有用性について述べてください。
- 2) あなたの実践領域において、健康課題をもつ対象者のセルフマネジメントの支援について、事例を1つとりあげて、具体的に述べてください。

<出題の意図>

セルフマネジメントは、地域で生活する人々が自らの健康課題に対して、主体的に取り組むことであり、看護者として支援することが重要である。この設問により、セルフマネジメントに関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

- 問1-1) セルフマネジメントについて、定義や構成要素などの観点から説明していること。セルフマネジメントを活用することの有用性について、生活の質の向上、主体的取り組みの促進、ストレス対処能力の獲得などについて述べていること。
- 問1-2) 健康課題をもつ対象者のセルフマネジメントの支援について、事例を1つとりあげて、必要な知識を提供する、モチベーションの維持を支える、自己効力感を高めるなどについて具体的に述べていること。

問2 地域の健康危機管理の分野を1つとりあげて、平常時および健康危機発生時の保健活動について、具体的に述べてください。

(80点)

<出題の意図>

地域の健康危機管理においては、平常時から備え、健康危機に対応する保健活動を行うことが期待される。この設問により、地域の健康危機管理に関する専門的知識、看護実践能力、論理的思考力をみる。

＜解答のポイント＞

健康危機管理の分野として、感染症、児童虐待、自然災害などの分野を1つとりあげて、平常時の予防教育や連携システム・体制整備、健康危機発生時の情報管理、対応体制の確定、地域住民への対応などの保健活動について具体的に述べていること。

問3 食物アレルギーをもつ学童期の子どもの学校生活におけるニーズを2つとりあげて、それぞれのニーズに対する支援について、具体的に述べてください。

(80点)

＜出題の意図＞

食物アレルギーをもつ学童期の子どもには、病気管理とともに子どもの発達課題達成へのニーズをふまえながら支援していくことが必要となる。この設問により、食物アレルギーをもつ学童期の子どもの学校生活におけるニーズに関する専門的知識、看護実践能力、論理的思考力をみる。

＜解答のポイント＞

食物アレルギーをもつ学童期の子どもの学校生活におけるニーズとして、集団活動へ参加すること、食物アレルギーに関して周囲の理解を得ること、食物アレルギーの管理が必要な日常生活において自己決定することなどを2つとりあげて、それぞれのニーズに対する支援を具体的に述べていること。